

評価結果公表票

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	270301583
法人名	有限会社オーランド
事業所名	グループホームオーランド
所在地	八戸市大字白銀町字佐部長根24-317 (電話) 0178-35-2500
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年11月5日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,000円ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック、嶋田医院、こんどうファミリー歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広大な敷地の中に建てられている。ホーム内には床暖房が整備されているほか、大きな窓から十分な日射しが入る等、明るく快適な空間である。
自立支援をテーマに「個性の尊重」「自己決定の尊重」「残存・潜在能力の活用」という開設当初からの理念を掲げるとともに、10人の職員の瞳で一人の利用者を見つめようとの思いを込めた「ALL FOR ONE」という今年度の目標を掲げている。管理者始め職員は理念や目標を十分に理解しており、その実践に向けて個々の経験等を活かしながら日々のケアを提供している。
職員間での報告・連絡・相談・確認に関する事項が「職員心得」としてまとめられており、虐待発見時の対応や日々のケア提供場面等において活かされている。また、会議や勉強会等を通じて成年後見制度や身体拘束などに関する理解を深めており、職員の質の向上につなげている。
立地上、どの町内にも属していないが、隣接する3つの町内との関わりを深めており、夏祭り開催時には広範囲にチラシを配布したり、運営推進会議の委員に3つの町内の代表に参加してもらう等、積極的に地域との交流を図っている。

【特に改善が求められる点】

夜間を想定した避難訓練等が行われているが、災害時に備えた食料や飲料水等の備蓄品は用意されていないので、今後の取り組みに期待したい。
献立は、職員が栄養成分表を参考に作成しているが、バランス等に偏りが見られるため、保健所等との連携を図り、栄養士等の専門家からの助言を受けられるような体制作りを期待したい。
地域福祉権利擁護事業について、全職員が概要を理解するまでには至っていないので、外部研修への職員派遣等を検討してはどうか。また、これまでの研修傾向を把握する等、内部・外部研修の年間計画の作成にも期待したい。
開設時からの理念を掲げ、その実現に向けた取り組みが行われているが、現在行っている地域との関わり等を踏まえて、理念に地域密着型サービスの役割等を盛り込んでどうか。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を会議等で話し合っており、改善に向けた取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は評価の意義等を理解しており、評価を通じて今後のケアサービスの質を高めようと意欲的である。また、自己評価の全項目を職員一人ひとりが記入することで、日常のケアを振り返る機会としている。職員個々が実施した自己評価は、会議で検討した上で完成させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会の代表や民生委員、行政職員等が参画している。会議では日々の取り組みや評価結果等を報告し、委員に意見を出してもらっており、その意見は今後の取り組みにつなげている。また、委員の協力を得て地域との関わりを更に深める等の取り組みも行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 半年ごとに発行している便りを通じて家族に日々の暮らしぶりを伝えるほか、面会時や電話等で健康状態などを随時報告している。面会時や行事の時には、家族が意見等を話しやすい雰囲気作りに努めるほか、契約時の文書にホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、目安箱を設置する等、家族がいつでも苦情等を話せるよう工夫している。家族から意見等が出された時はすぐに話し合い、今後のケアに反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 3つの町内会との交流が図られており、地域の行事やごみ拾い等の活動には積極的に参加している。また、将来的には公民館の文化祭に参加したいと意欲的である。見学を受け入れる等の取り組みも行っており、その際には居室への立ち入りを遠慮してもらう等、利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	理念を毎朝唱和して職員間での共有に努めるほか、理念を基にした年度ごとの目標を掲げ、その実現に向けて日々取り組んでいる。虐待が社会問題になったことを受けて職員間で話し合ったり、外部研修に参加する等の取り組みにより、職員は虐待について理解を深めている。また、管理者は職員のケアの提供場面や心身の状態に注意を払い、虐待の防止に努めている。 市のグループホーム連絡協議会への加入を通して同業者との交流が図られており、他ホームを見学したり、他ホームからの見学を受け入れる等の機会が設けられ、そのことが職員の良い刺激となっている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	個々に合ったケアを提供できるよう、入居前から利用者や家族からの聞き取りを行い、一人ひとりの生活環境や意向等を把握している。 入居後は、利用者と関わる時間を持って個々の気持ちを理解するよう努めている。また、利用者の得意分野では力を発揮できるよう、場面作りを行う等の取り組みも行われている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	多方面からのアセスメントや日々のコミュニケーション等を通して利用者や家族の意向を把握するほか、ケース会議で話し合いを行い、個別具体的な介護計画を作成している。 これまでの病歴等を把握しており、入居前からのかかりつけ医での受診を支援するほか、24時間体制で対応する医療機関を確保し、日々の健康管理や急変時等に備えている。また、看護師等の配置による重度化や終末期のケアへの対応は行っていないが、利用者や家族の希望により、終末期をホームで過ごすための支援を可能な範囲で行っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者の生活歴等を把握し、言動を急かさず、個々のペースを大切にケアを提供するよう心がけている。また、生き生きと暮らせるよう、利用者日々の役割や楽しみごとを促している。 感染症例ごとの対応マニュアルを整備しており、必要に応じた見直しや職員間での勉強会等が行われている。また、ホーム便りに感染症に関する情報を掲載しており、家族等への周知にも努めている。 共用空間の畳のスペースにはこたつを置く等、家庭的な雰囲気となっている。また、居室にはテーブル等の馴染みの物が持ちこまれており、落ち着いた空間となっている。

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	公民館の文化祭に参加したいとの目標を持つ等、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。自立支援を大きなテーマに「個別性の尊重」「自己決定の尊重」「残存・潜在能力の活用」という開設当初からの理念を掲げているが、地域密着型サービスの意義等が反映されるまでには至っていない。	○	地域との関わりに関する現在の取り組みや目標を基に、今掲げている理念に地域密着型サービスの役割を反映させるよう全職員で検討してはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝唱和して職員間での共有に努めるほか、理念を基にした年度ごとの目標を掲げ、日々その実現に向けて取り組んでいる。今年度は、10人の職員の瞳で一人の利用者を見つめようとの思いを込めて、「ALL FOR ONE」という目標を全職員で作成している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	立地条件からどの町内にも属していないが、隣接する3つの町内との関わりを持っている。夏祭りには参加呼びかけのチラシを広範囲に配ったり、地域の草刈りやごみ拾い等に参加するほか、運営推進会議には3つの町内の代表や民生委員に参画してもらっている。また、将来的には公民館の文化祭に参加したいと意欲的である。市のグループホーム連絡協議会での見学を受け入れる等の取り組みも行っており、その際には居室への立ち入りを遠慮してもらう等、利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、評価をすることで今後のケアサービスの質を高めようと意欲的である。また、自己評価の全項目を職員一人ひとりが記入することで、日常の自分のケアを振り返る機会としている。職員個々が実施した自己評価は、会議の場で検討し、完成させている。外部評価の結果についても会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には3つの町内会の代表等が参加しており、会議の主旨を説明し、理解してもらっている。会議では日々の出来事や評価結果等を報告して委員の意見を引き出し、今後の運営につなげている。また、委員の協力を得て、地域との関わりを深めることにもつなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者には運営推進会議の委員になってもらっており、会議を通じてホームでの様子をスナップ写真を用いて情報提供したり、評価結果等の報告を行っている。また、八戸市のグループホーム連絡協議会に加盟しており、会議の場では行政との質疑応答の時間を設ける等、連携を深めるよう取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、内部研修のテーマとして取り上げたことがあるため、職員は概要を理解し、適宜必要に応じた支援を行っている。しかし、地域福祉権利擁護事業については学習の機会を持っておらず、全職員が概要を理解するまでには至っていない。	○	内部研修で取り上げたり、外部研修への参加等を通して、権利擁護事業についても全職員が概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が社会問題になったことを受けて職員間で話し合ったり、外部研修に参加する等の取り組みにより、職員は虐待について理解を深めている。また、職員のケアの提供場面や心身の状態に注意を払い、虐待の防止に努めている。職員間での報告・連絡・相談・確認に関する事項が職員心得として整備されており、虐待発見時も心得にそって対応することとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、理念やケアの方針等について利用者や家族に説明しており、同意を得ている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明して納得してもらっており、退居時には必要に応じて関係機関との連携を図り、退居後に関する支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりを撮影した写真を家族に見てもらったり、半年ごとに便りを発行し、ホームでの出来事を家族に伝えている。また、面会時や電話等で健康状態などを報告するほか、金銭管理状況についても領収書を添付して家族に報告している。職員の離職や採用等についても随時伝えている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の時は家族が要望等を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示したり、目安箱を設置する等の取り組みも行われている。家族から意見や苦情等が出された時はすぐに話し合い、今後のケアに活かしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時は、利用者がその職員を受け入れるまで他の職員がバックアップしている。また、離職や異動等がある時は利用者に十分説明するとともに詳細な引継ぎを行うなど、利用者への影響が最小限になるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や事務長が日々の職員の悩み等について助言している。また、運営者は、職員のレベルアップに必要な研修受講を奨励しており、勤務体制に配慮した上で、個々の経験年数や力量に応じた外部研修に職員を派遣している。受講後は復命書を作成し、会議で全職員に周知する等の取り組みは行っているが、受講に関してはその都度検討されており、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員の受講歴や希望を把握する等の取り組みを行い、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会への加入を通して同業者との交流が図られており、他ホームを見学したり、他ホームからの見学を受け入れる等の機会が設けられている。また、他ホームとの交流が職員にとって良い刺激となっており、自分たちの日々のケアに目を向ける機会となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々に合ったケアを提供できるよう、利用者や家族からの聞き取りを行い、一人ひとりの生活環境や意向等を把握している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に関わる時間を持ち、個々の気持ちを理解するよう努めている。また、利用者の得意分野では力を発揮できるよう、場面作りを行う等の取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族からの聞き取り等を通じて、個々の思いや意向などを把握している。また、全職員が今年度の目標である「ALL FOR ONE」の姿勢を持ち、利用者一人ひとりの要望等の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	多方面からのアセスメントや日々のコミュニケーションを通して利用者や家族の意向を把握するよう努めるほか、毎月のケース会議で全職員で意見交換や検討を行い、個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、利用者や家族とのコミュニケーション等を通して状態や希望等の変化を把握するよう努めており、把握した時は随時見直しを行っている。見直しを行う時には評価・再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制はとっていないが、利用者や家族の希望により終末期をホームで過ごすための支援体制を整えている。また、受診時の送迎や買い物への外出等、利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの病歴等を把握しており、入居前からのかかりつけ医での受診を支援している。また、協力医療機関を確保しており、24時間体制での対応や2週間ごとの往診を受けている。受診結果は随時家族に報告しており、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師等の配置による重度化や終末期のケアには対応していないが、日々の健康管理や急変時の対応については家族との意思統一が図られている。また、利用者や家族の希望により、可能な範囲で終末期の利用者の支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念や今年度の目標、職員心得をミーティング等で唱和し、それらを意識したケアを提供するよう努めており、利用者の言動を否定することなく、羞恥心やプライバシーに配慮した声かけや対応を行っている。職員は個人情報保護法について理解しており、重要な書類は利用者や訪問者の目が届かない詰め所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、利用者の話に耳を傾ける余裕を持ちながら、個々のペースを大切にケアを提供するよう努めている。また、その日の利用者の状態に応じて対応を臨機応変に変更する等の取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や畑で採れた食材を取り入れた食事を提供している。個々の生活歴等に応じて洗い物や味付けなどを利用者に手伝ってもらったり、職員が利用者の中に座って会話しながら一緒に食事を摂る等、食事を楽しめるような工夫が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっており、利用者一人ひとりの習慣に合わせて、職員見守りのもとで基本的に一人ずつの入浴を促している。入浴を面倒に思う利用者に対してはその思いを受け入れながらもさりげなく誘導する等の配慮が行われている。また、入浴を拒否する利用者には職員を替えて声がけしたり、足浴を促す等の対応が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の関わりやアセスメントから一人ひとりの生活歴や希望等を把握しており、個々に応じた役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ等の月ごとの行事のほか、利用者の希望を取り入れながら散歩や買い物等に出かけている。また、毎日バイタルチェックや体調観察を行っており、その時々に合わせて臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等を通じて身体拘束に関する理解を深めるとともに、ケアを提供する上での問題点等について話し合いながら、拘束のないケアを実践するよう努めている。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、理由等の記録を残したり、家族に説明して同意を得る等の体制が整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、玄関にセンサーを取り付けたり、職員が見守りを行う等の取り組みにより、利用者の外出傾向を察知するよう努めている。察知した時は職員が付き添って外出するなどの対応を行っている。また、無断外出時に近隣からの協力が得られるよう、隣接する3つの町内会との関わりを深めている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が行われており、1回は夜間を想定した訓練を行っている。訓練時は消防署や町内会の協力を得る等の取り組みを行っているが、災害時に備えて食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害発生時に備えて、食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分の摂取量を把握し、記録している。献立は栄養成分表を基に職員が作成しているが、栄養士等の専門家からの助言を受ける体制整備には至っていないこともあり、栄養バランスやカロリー一面について十分に配慮されたものとはなっていない。	○	保健所や医療機関等の協力を得るなど、栄養士等から献立に関する助言を受けられるような体制を整備するとともに、栄養バランスやカロリーに配慮された献立を作成することに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症例ごとの対応マニュアルが整備されており、関係機関からの通達等を通して最新の情報を収集し、適宜見直しを行っている。また、職員は会議等を通して感染症に関する理解を深めている。感染症に関する情報をホーム便りに掲載する等、家族への情報提供を行うとともに、訪問者にもうがいや手洗いの励行を呼びかけるなど、予防に向けた取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダが設置されているほか、畳のスペースにこたつを置いたり金魚鉢を置く等、家庭的な雰囲気となっている。また、利用者と職員が作った季節感のある装飾品が飾られている。職員は穏やかに利用者に接し、テレビ等の音量も適切である。また、大きな窓からや自然光が入るなど、快適な空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、居室にはタンスやテーブル、植物等の馴染みの物が持ちこまれている。また、手工芸品等を飾るなど、生活感のある居室となっている。		

※ は、重点項目。